

様式1 令和5年度 山梨県立高等支援学校桃花台学園学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	生徒に誇りと自信をもたせ、他者への思いやりや協調性を培うとともに、職業教育を通じて、意欲的に社会参加する力を養成する。
-----------	---

山梨県立高等支援学校桃花台学園校長 望月 公

本年度の重点目標	1 全ての生徒に目標をもたせ、自己実現及び社会的自立を促す指導と支援を行う。	達成度 A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)
	2 職業教育・キャリア教育の充実を目指すとともに、企業就労に向けた知識・技能を身につけさせ、よりよい就労へ導く。	
	3 軽度知的障害生徒の特性や様々な家庭環境にある生徒の指導・支援に専門的かつ組織的な教育を追求する。	
	4 高等特別支援学校の特色を生かし、地域に開かれた社会とつながる学校づくりを行うとともに、学校周知のための広報活動を推進する。	

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			年度末評価(令和6年1月24日現在)
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	・わかる授業を目指して、授業力の向上と研究活動の充実を図る。 ・「規範意識」や「自他を尊重する力」の育成を目指した教育活動を展開する。	・全職員が教育目標を共通理解し、その具現化を目指した教育活動の推進	教職員個々人による目標設定
		・共通教材フォルダの活用など、教材の共有化による合理的な授業準備 ・各教科における共通教材の充実	共通フォルダ内の教材の活用 授業観察の実施と授業改善
		・専門教科と他の教科とを関連させた職業教育の充実 ・一般就労を目指した教育課程の編成	教科会議の内容共有 教育課程の検討
		・綿密な個別的教育支援計画・指導計画の立案と適切な評価 ・個々の生徒の実態に応じた適切な学びの提供	個別の支援計画・年間指導指導計画等の作成
2	・生徒一人一人の特性や能力に応じた専門的な教育・支援を行い、生徒の実態に応じた企業就労や、職場定着に向けて取り組む。	・外部の企業や人材を活用した各コースの教育内容の充実	外部講師を活用した専門的指導 校外実習の実施
		・生徒一人一人の能力や特性に応じた専門的な教育・支援の充実 ・一般就労の促進と就労後の職場定着に向けた計画的な取組	能力や適性に応じた一般就労の促進 就労に係る関係者会議の開催
		・進路開拓を目指して、企業等への周知及び連携の促進	企業対象説明会等の開催 進路先の新規開拓
		・外部専門家を活用し、生徒及び保護者に対する指導・支援を専門的かつ組織的に実施する。 ・生徒の実態や諸課題を踏まえたキャリア教育、安全教育、道徳教育、性教育、食育を充実させ、教育課程全体を通して取り組む。	心理士による相談支援事業の実施 校内支援会議の開催
3	・外部専門家を活用し、生徒及び保護者に対する指導・支援を専門的かつ組織的に実施する。 ・生徒の実態や諸課題を踏まえたキャリア教育、安全教育、道徳教育、性教育、食育を充実させ、教育課程全体を通して取り組む。	・心理士を活用した、生徒・保護者・教職員への相談支援活動の充実 ・支援会議における生徒や環境に係る課題整理と指導方針の共有	心理士による相談支援事業の実施 校内支援会議の開催
		・各教科等横断的なカリキュラムマネジメントの推進による教育内容の充実	シラバスの見直しと他教科との情報共有
		・いじめや問題行動の未然防止に向けた計画的・組織的な対応 ・安全教育の充実と危機管理マニュアルの周知・共有	「生徒心得」「いじめ基本方針」の共有と検討 危機管理マニュアルの見直しと交通安全、災害教育等の実施
		・人権を尊重した丁寧できめ細やかな指導の徹底 ・生徒の実態を適切に把握し、特性等に応じた合理的配慮の提供	生徒情報の共有 校内支援会議の開催 関係者会議の開催 自立活動の指導計画の作成と活用
4	・一般就労率の向上、志願生徒数の増加を図るため、広報活動を計画的に実施する。 ・保護者・地域・関係機関等に理解を促進するとともに高等特別支援学校としての本校について、地域に開かれた学校づくりを行う。	・本校の教育活動の理解促進を目指し、学校ホームページの効果的活用 ・諸機関が発行する広報誌等を活用し、本校の教育活動を積極的に発信 ・新聞やテレビのマスメディアや、地域の広報誌を通して、可能な限り本校の教育活動を公開し、理解啓発に努めた。 ・本校の教育や設置意図、生徒の状況などについては、今後も様々なソースを使ってアピールしていく。 ・所定開拓の桃花ダイスキマーケットや秋の大収穫祭には多くの来校者があり、本校の教育や生徒の活動を知っていただくための有意義な機会となった。 ・所在地域や近隣施設で校外実習し、地域交流の推進に加え、地域とともに歩む開かれた学校を目指して取り組んだ。	ホームページの充実と 学校情報の即時更新 各誌への掲載促進 広報活動の計画立案
		・地域における実習等の教育活動の機会を多く設定し、本校理解と相互連携を促進 ・マーケット等の開催を通して地域住民との関係性を深め、開かれた学校づくりの推進	地域交流や地域を巻き込んだ実習の実施 桃花ダイスキマーケット・収穫祭の効果的計画と実施
		・2人の心理士による専門的な相談体制を整え、生徒への対応や教職員へのコンサルテーションに成果を上げている。 ・学校研究をとおして、本校の年間指導計画について見直した。 ・キャリア教育や安全教育などの教科横断的な教育内容について取り上げた「授業改善フォーラム」を開催し、教職員個々の意識と実践力の向上を目指した。 ・学校安全については、全体計画に則り、全教職員で計画的に取り組んだ。 ・全教職員でいじめの根絶に取り組み、重大な事案は確認していない。しかし、過度なじゃれ合いやSNSの不適切使用など、細かな事案を数件確認している。 ・一人一人の生徒に対して、関係する様々な機関等と情報共有し、連携して指導・支援に当たっている。	・心理士の専門的な助言等は、本校の生徒・保護者・教職員にとって非常に有用のため、今後も有効に活用していく。 ・年間指導計画は、各教科等の担当者を中心に充実した内容に更新したが、教科等横断的な視点での検討が薄く、改善に取り組む。 ・必要に応じて「生徒心得」の内容を改訂したが、今後は社会情勢を踏まえた「生徒心得」のあり方について検討する必要がある。 ・いじめ等の未然防止・早期発見には、生徒との関係性の構築と家庭との連携が不可欠であるため、今後も継続して取り組んでいく。 ・生徒を取り巻く関係機関等と協働し、今後もきめ細かく指導していく。
		・本校の教育方針や教育内容が十分理解されないまま、進路指導が向えるケースが散見される。 また同様に、本校生徒の実習や雇用不足が懸念される。 ・本校の教育や設置意図、生徒の状況などについては、今後も様々なソースを使ってアピールしていく。 ・所在地域とは、円滑な関係を構築している。相互に充実・発展させていくために、地域に根ざした桃花台学園、地域とともにある桃花台学園となるよう、今後も取り組んでいく。	・本校の教育方針や教育内容が十分理解されないまま、進路指導が向えるケースが散見される。 また同様に、本校生徒の実習や雇用不足が懸念される。 ・本校の教育や設置意図、生徒の状況などについては、今後も様々なソースを使ってアピールしていく。 ・所在地域とは、円滑な関係を構築している。相互に充実・発展させていくために、地域に根ざした桃花台学園、地域とともにある桃花台学園となるよう、今後も取り組んでいく。

学校関係者評価	
実施日(令和6年2月16日)	
評価	意見・要望等
4	○教員の授業改善として、教職員評価の「研究・研修」および「教育書籍等の整備」の項目の評価が若干だが低かった。知的障害教育における基礎的事項を踏まえた教育活動の計画の充実を図ることが大切である。 ○道徳と関連するが、人権教育は生徒の実態の理解も含めて進めることが大切である。生徒の実態を踏まえつつ、障害者差別解消法の改正に伴う事業者の合理的配慮の提供義務化により、一層の人権意識や主権者意識が求められる。本校の生徒が差別を受けることなく、社会生活を送ることができるよう、学校側の支援体制により、主権者意識を高める教育活動を進める必要があると考える。 ○性教育について、どのタイミングで指導するか見極めが難しい。個別対応のみでなく、学校全体として取組の必要がある。人権教育と共に、自分自身を大切にする力を育成し、他者への配慮や自身の意思表示ができるように取り組んで欲しい。 ○理解が十分でないまま「進路指導」されることで所属意識が弱かったり、登校が安定しなかったりと多様な実態の生徒が在籍する中で、学校は十分努力していると推察する。 ○就労は、コースに関連する職種に就職するだけでなく、「仕事に係る基本的なことを学ぶ」ことが目標とのことだが、コースの見直しをとおして、「コースは就職と関係ない」と思われることを防ぐ努力をしていかなければならないのではないか。 ○職業的自立が中核的教育活動であるため、結果が出やすいと考える。しかし、就労ができないと「脱落者」と考えてしまわないか心配がある。その場合、メンタル面のサポートが必要になる。「自他を尊重する」「そのままの自分で大丈夫」という安心感の中で教育を行うことが大切である。 ○非常に努力されていることがわかる。 ○「規範意識」「自他の尊重」は、社会生活で非常に重要である。生徒一人一人の目線に立った指導が効果的と考える。 ○授業の質を上げるために授業観察を行いたい、教職員が多忙なため時間がないと推測する。日常的に悩みを話し合える教職員の関係が構築できるとよい。 ○「規範意識」「自他の尊重」の指導は、育成歴もあるので、学校だけでは難しい。関係各所と連携していく必要がある。
4	○外部専門家の活用により、就労に向けた教育が充実し、実践的な学びができている。 ○企業就労の他、様々な進路があるが、その具体的なイメージを生徒および教職員が共有していくことが大事になると考える。 ○企業のマッチングに関する職業評価+職場評価(学校や生徒からの企業評価)の取組が必要ではないか。実習等が極めて重要だが、外に現れてきにくい職場内での人間関係やルール等もあるため、教員が職場訪問時に現場に入り、丁寧な説明を受ける等「職場評価」を実施をするとよい。 ○企業就労や進学に結びつかなかった生徒の分析を実施し、「中学校での進路指導が適切だったか」「生徒の希望と企業とのマッチングが適切だったか」等、分析結果の傾向を基に事前対応について検討をして欲しい。 ○内定をもらうまでの間にスムーズにいけば3回の実習を同じ職場で経験ができることは非常によい。具体的な仕事や人間関係、体調管理など、就労した時のイメージがもちやすくなる。 ○企業就労が必ずしもゴールではなく、生徒一人一人に対し、様々な状況に対応できる様子を育む指導を進めることが大事である。 ○社会へ送り出す直前教育の場として実習先、就労先の開拓が苦勞されていると思う。とてもありがたい。
4	○知的障害教育では教科横断的な教育活動を通して、社会生活に必要な知識・技能を身につけていく必要がある。そのために必要な教育活動に関する研究授業を進めて欲しい。キャリア教育や安全教育だけが教科横断的なものではなく、全ての教育活動において様々な領域が複合し合っってよい学びが得られるので、「軽度知的障害生徒における教科横断的な職業教育の実践」などテーマを定めて研究を進めていくことが必要ではないか。 ○「心得」という言葉自体が時代に似合っているか。生徒にとって分かりやすい言葉を用いた方がよいと考える。 ○生徒や教職員に対する支援体制が整っており、日頃の教育活動に存分に活かされているものと見受けられる。保護者評価において少々満足度が低い反応があり、今後は保護者に向けての相談支援体制を一層固めていけるように進めていただきたい。 ○人間関係やSNSの活用は社会スキルの獲得及び遂行が重要になるため、まずは生徒一人一人の社会スキルの現状把握を行い、全体と個別の両方からアプローチしていけるとよい。SNSの使用に関しては情報活用能力の一つとして扱う必要がある。 ○良く取り組まれている。 ○「人権擁護」の観点から、卒業後を見据えて「消費生活センター」「法テラス」「労働基準監督署」「女性支援センター(予定)」「警察の生活安全課」等々の利用方法を卒業までに学習させて欲しい。 ○どの課題に対しても非常に努力されていると思う。いじめ・不登校については保護者とのコミュニケーションが不可欠となるので保護者の意識改革も必要である。セミナーなどの開催を広く通知するとよい。 ○生徒が「社会へ出た時は、家庭で生活への理解や協力が不可欠になってくると考える。対学校から対企業への連携を引き続きお願いする。 ○カウンセラーは本当にありがたい。心のよりどころになってもらえると考える。
4	○本校の趣旨やその機能の周知には、本校と県教育委員会との連携が必要である。また、中学校の進路指導主事の学校見学会や説明会の一層の活性化が必要である。そして、就労に関しては山梨県産業労働部や障害者職業センター、就業支援センターとの連携も大切である。 ○桃花ダイスキマーケットや収穫祭の情報は周知されている。その他、可能な範囲でアウトリーチしていく。それが、学校全体の周知につながると考える。 ○雇用の現状は、学校優位になっている。ハローワーク等の助けを得ながら、雇用事例集の作成や障害者雇用月間への参加等、新卒者向けの企業開拓ノウハウの蓄積等が必要である。 ○中学校では、本校の理解が十分でないまま、進路指導がなされることに対して、何らかの対策が必要である。入学段階での進路のミスマッチは生徒の死活問題にかなりかかぬ。中学校進路指導教員のオーブンスクール参加等、何らかの対策を立てる必要がある。 ○本年度は、非常に多くの新聞やテレビに取り上げられたこともあり、十分学校をPRできたと思う。若い世代への発信であればインスタグラムなどの活用もよいのではないかと。 ○サッカー部の活躍がメディアに取り上げられ、注目を浴びた。非常に嬉しく感じた。今後もメディアなどを活用し学校をPRして行けるとよい。 ○石和東小、石和東こども園、中川地区(公民館まつり、掃除、けやきの会)等、たくさんの交流が行われている。桃花ダイスキマーケットも地域とのつながりに役立っている。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。